



イマジン
ロータリー

国際ロータリー第2610地区
南砺ロータリークラブ

クラブ会報 なんと



NO. 2571

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ぶくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

写真撮影

写真同好会

谷村修基会員



「ロケットン現象」(10/11・10/12) (U)C

第2632回例会 令和4年10月11日(火)晴 19℃

- ◆点 鐘 12:30 古瀬喜八郎会長
- ◆司 会 谷村修基SAA
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆会長の時間 古瀬喜八郎会長



クラブHPへ

今日から上坂英伸さんが我々の仲間になってくれました。上坂武喜さんのご長男です。この後推薦の方からご紹介があります。よろしくお祈りします。10月の第2例会は、次々年度の会長指名委員会を選出のための委員を発表致します。岩木さん、川合さん、木勢さん、北島さん、古瀬会長、木村次年度会長の6名ですが、皆さんの信任を戴くことになっています。(拍手多数)

ウクライナ情勢が、ロシアのミサイル攻撃で大変なことになっています。主要施設の破壊がニュースになっています。なんとか収まるよう祈っています。

《今日の心がけ》♥「月を愛でましょう…十三夜」
十三夜は「後の月」と呼ばれ、十五夜(9/10)の約一ヵ月後に巡ってきます。十五夜は中国から伝わってきた風習ですが、十三夜は日本固有の風習です。



その由来は諸説あり、平安時代の宇多天皇が愛でたのが始まりだという説や、稲の収穫を終える頃に当たることから収穫祭の一つだったのではないかと説などがあります。

夏の暑さが残っていて雨の多い十五夜よりも十三夜の頃は晴れることが多いため「十三夜に曇りなし」とも言われています。

また、十五夜だけを愛でるのは「片見月」と呼ばれ縁起がよくないため、十五夜にお月見をした時には十三夜にも必ずお月見をするものとされていました。

昔の人は完全な姿の満月だけでなく、満月が少しだけ欠けた十三夜の月に趣を感じていたようです。

日本人には、不完全なものに美しさを見いだす美意識があります。そうした価値を見いだし、良しとする「侘」「寂」の精神で月を愛でたいものです。

◆理事会・幹事報告 石崎和三幹事

- ①上坂英伸(うえさかひでのぶ)さんの入会により、若い世代へのクラブの存続に希望が持てるようになってきました。ぜひ、あと4・5名の入会者を獲得しましょう。
- ②射水RCより、例会変更の案内受領。
- ③友好交流クラブの富士見RCより、6/10の当クラブ55周年記念式典に参加の出席の意向が伝えられました。おおいに歓迎したいと思います。

◆前年度収支決算報告 榊 祐人会計

2021~22年度の会計について、300万円余りの繰越金を残して今年度に移行することになりました。詳細は別紙参照下さい。

◆新会員紹介

推薦人：武田慎一会員、本田敏会員



*上坂英伸君(うえさかひでのぶ)
上坂建設株式会社 代表取締役社長
職業分類：土木工事
住所：南砺市小坂397
上坂君挨拶「皆様より、お誘いを戴いておりましたが、50才となった契機に入会させて戴くことにいたしました。また、父親が永年通っていろいろな経験してきた景色を見たいなと思いました。このうちは、みなさんに迷惑をかけながらも、一生懸命やってみますのでよろしくお祈りします。」

◆委員会報告

●R情報・雑誌委員会 川合声一委員長

「友10月号」紹介 4PRI会長メッセージ。8P特別インタビュー「私、空気読まません」24P世界ポリオデー。ポリオ根絶に取り組んでいることを示しましょう。たて9Pこの人を訪ねて。足利東の池上智恵子さんの山のワイナリーココ・ファームの感動の物語をぜひ読んでください。

★ニコニコボックス 10/11 谷村賢治委員長

- 古瀬君 上坂英伸さん、入会有難うございます。松村さん卓話宜しくお祈りします。木村さん、梨有難うございました。
- 石崎和君 上坂さん、ようこそ我がロータリーへ。おめでとう。荒井君 松村さん、卓話を楽しみにしております。「医王山をめぐって～ナント万葉集にあった」すばらしいですね。新入会員上坂英伸君、入会おめでとうでございます。
- 川合君 先週末～今週末まで、本店工場祭。立山本店工場祭とお客様イベントの連続です。多くの来場ありがとうございます。松本君 谷村ニコボックス委員長と出席マークを付けました。皆出席にする為にも、メイクアップをお願いします。
- 木勢君 上坂英伸さんの入会を祝して。結婚記念品ありがとうございます。研修のため早退します。
- 船藤君 木村さん、ありがとうございます。梨狩り楽しかったです。あちこち配って、PRしてきました。上坂さん入会歓迎します。
- 木村君 上坂さんの入会、良かった。梨の仕事もメドがたてばとあせてます。
- 高野君 新入会員上坂君ようこそ。松村さん卓話楽しみです。中田裕君 松村さん、卓話楽しみます。
- 大西君 一昨日の梨狩り楽しかったです。腰が痛くなったけど…。木村さん沢山頂き有難うございました。松村さんの卓話楽しみます。
- 榊 君 秋を通り越して、初冬の様な涼しさとなり、ネクタイした方が良くくらいです。新入会員上坂英伸さん、よろしくお祈りします。松村さんの卓話、楽しみます。
- 森雄君 上坂さん、入会おめでとうでございます。もう、抜けられませんか。
- 安居君 上坂英伸さん、入会おめでとう。仲間が増えてうれしいです。これからも宜しくお祈り致します。
- 本田君 上坂英伸君、入会おめでとうでございます。これから、よろしくお祈りします。

本日のプログラム 10月18日(火) 第2633回例会 卓話

担当 片山道代会員

◆出席報告 松本敏博委員長

会員数	10月11日出席率	9月27日(未修正)
45 (免除2)	66.67% (欠15)	72.70% (欠12 メーク2)

次回の予定 10月25日(火) 第2634回例会

卓話 (株)日本抵抗器製作所 代表取締役社長 木村 準氏
担当 森 悦夫会員

四つのテスト
言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



折しも高岡市では一昨日迄万葉祭りがあり、萬葉集全20巻4516首全巻朗の会が終わりました。この巻16に「越中の国歌」4首という作者名のない歌があるをご存知でしょうか。



1. 大野路は繁(しげ)道(ぢ)森(もり)道(みち)繁くとも君し通はば道は広けむ
(場所推定；砺波市般若野・梅檀野または福岡)

2. 渋谷の二上山に鷲ぞ子産とふ翳(さしわ)にも君がみために鷲ぞ子産とふ
(場所推定；雨晴附近)

3. 伊夜彦 おのれ神さび青雲のたなびく日すら小雨そぼ降る

4. 伊夜彦の神のふもとに今日らもか鹿の伏すらむ皮の衣着て 角つきながら



桜と医王山

このうち1. 2は呉西地区の中に場所が特定されていますが3. 4の「伊夜彦」の2首は江戸時代の学者によって遠く越後の弥彦山の歌とされています。新潟県弥彦村ではこの万葉2首を大切に村内の弥彦神社や弥彦山の宣伝に使っていることは村のHPを見ていただければわかります。鹿まで飼っています。

3. 4の2首が越中にないのはおかしいのではないかと問題提起された富山大学の先生がおられたが「伊夜彦」を立山とした「イヤ立山」説を唱えたために、高山に「小雨そぼふる」はないのではないかと反論されてしまいました。

今日は南砺市にあるべき大切な観光資源がよそのものになっている、これでいいのかという私の考えを聞いていただきます。一介の薬屋が自説をとこなえても誰も相手にしてくれませんが、ただ地元の人間にしかわからないこともあるのです。こういう考えがある事を知ってください。

30分間の卓話で私の妄想をお伝えするため 毎日曜日ごとに運行の観光電車「べるもんた」のボランティアガイドに登場していただきます。

『みなさま 進行方向右側をごらんください。どっしりとした大きな山が見えてきました。標高969m、富山石川県境にある北陸の名山イオウゼンです。この山は雨のイメージの強い山で、奈良時代にできたあの万葉集巻16にこの山の霊山ぶりをよんだ歌があります。

伊夜彦 おのれ神さび青雲のたなびく日すら小雨そぼ降る

イヨ山は神様の山だから晴天の日でもここだけは小雨がしとしと降っているよ、という意味です。

越中の神話を集めた江戸時代の書物に、医王山の神様は風や雨の神で、能登の鳳至の山の中から飛んで来られて医王山の池のほとりに鎮座されたとあります。またこの山は地元では天気予報の山で、この辺の人たちは医王山に雲がかかるとあわてて家に帰ったり干してある稲を取り込んだりしました。何かで小さい子供などが泣きそうになると、まわりの大人たちが「ワー医王山曇ったジャー」とはやしました。

医王山はまたあの泰澄大師が白山につづいて開山し、山中に四十九カ寺三千坊の堂舎をよする密教の霊場だったという伝説があります。同時代にできた萬葉集巻16には泰澄のお弟子たちがこの山懐で修行している様子が歌われています。

伊夜彦の神のふもとに今日らもか鹿の伏すらむ皮の衣着て 角つきながら

その姿は鹿の皮衣を身にまとして 鹿の角を付けた「カセヅエ」をつくという昔の山岳修行者の定番スタイルをよんだものです。

長いお話をしている間にもう終点です。ありがとうございました。』

とにかく萬葉集巻16「越中国歌」の伊夜彦の二首は越中の医王山をよんだもので、越後の歌ではないと思います。

(追補) この「越中国歌」ひとつ前の「能登国歌」また他の国の同じような作者なしの万葉歌にはなにかをからかったり、あざ笑ったりして楽しむ気分が共通しているとした学者がある。伏木にあった越中国司の館には国司、介、掾、目などの役職以下数十人は居りまた家持を中心とした宴飲がまた多い。家持や池主など上司の歌で始まる宴も、酒がまわると作者の名を出せないような、今なら炎上してしまうような歌も1500年前には管弦にのって優雅に鷲や大野に通う宴の仲間や変な霊山や新興宗教の行者たちの姿を肴に歌われてますます興がもりあがったことだろう。



「越中国歌」

(今回の会報担当：谷口和尋)